

魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録された 水中写真に基づく八丈島産魚類目録

古瀬浩史・瀬能 宏・加藤昌一・菊池 健

Koji Furuse, Hiroshi Senou, Shoichi Kato and Takeshi Kikuchi :
List of the fishes of Hachijo-jima Island, the Izu Islands, on the basis
of the underwater photographs registered to KPM-NR

はじめに

近年, レジャーダイバーの人口が増加し, ダイビングの楽しみ方が多様化する中で, 陸上のバードウォッチングと同じように「フィッシュウォッチング」を楽しむ人や, 格段に進歩した水中撮影器材を使って自然状態の魚の写真撮影を楽しむ人が多くなっている。それにともなって, ダイバーにより撮影された魚の写真が, 魚類の研究者に有用な情報を提供する例もでてきた (例えば瀬能・森田, 1995)。魚類では識別が難しい特別なグループを除き, 写真による種の同定が可能である。水中写真の属性には分布情報 (撮影地) や出現時期 (撮影日) が含まれ, 固定後変色しやすいという魚類の特性上, 生時の色彩を記録した写真のもつ資料的な価値はきわめて高い (瀬能, 1994)。

神奈川県立生命の星・地球博物館では, このような写真資料を学術研究をはじめとする様々な博物館活動に活用するため, 「魚類写真資料データベース」と命名された画像データベースシステムを1995年3月より運用している。ダイバーや研究者によって撮影された魚の写真がデジタルデータ化され, 博物館の研究資料として保存されると同時に, 一般への公開も同館のミュージアムライブラリーに設置された端末を通して行われている。しかも, 単に閲覧だけでなく, 複雑な検索を誰もが自由にできるようになっているのである。

今回, このシステムを利用した成果の第1歩として, 伊豆諸島の八丈島沿岸で撮影された魚の写真に基づき, 同島の魚類の目録化を試みたのでここに報告する。

八丈島は黒潮の影響を直接的に受ける伊豆諸島南部に位置し (図1), 島の周囲には隣接する八丈小島の周辺を含めて多数のダイビングポイントが存在する (図2)。

八丈島の海岸地形は, 成立年代の異なる二つの

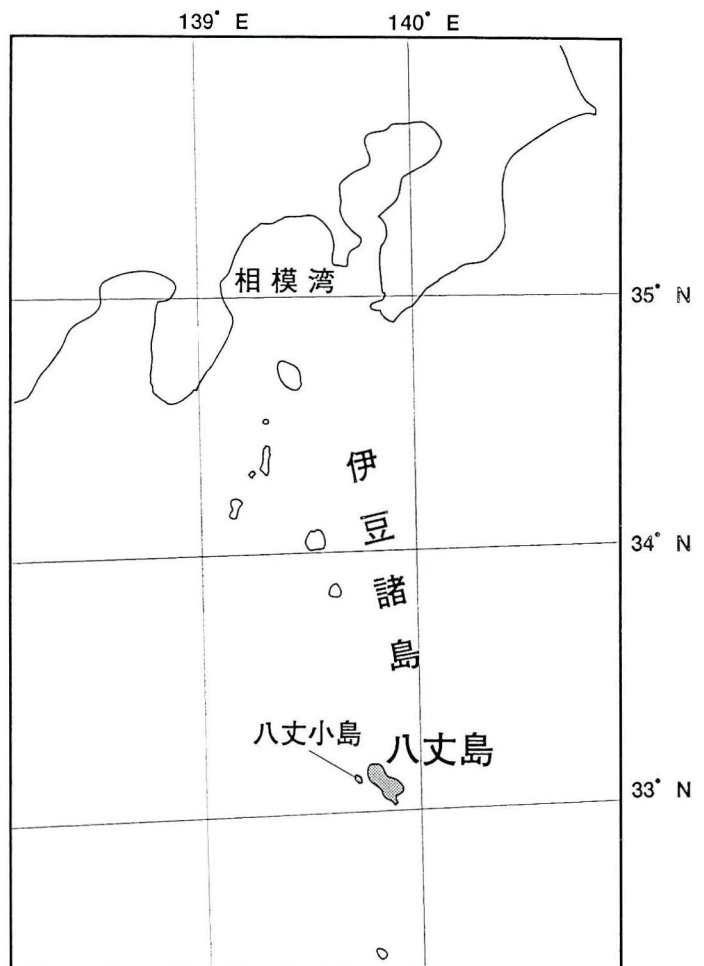


図1. 八丈島の位置.

調査地の概況

火山によって特徴づけられる。島の北西に位置する西山（八丈富士）は、17世紀始めまで噴火の記録のある新しい火山で、海岸には玄武岩質の溶岩が露出している（東京都防災会議編，1990）。高い海食崖は形成されておらず、西山側の海岸には陸から徒歩で海に入ることができるダイビングのポイントが多い（八重根、ヤケンヶ浜、大潟浦、南原、ナズマド、垂土、アライケ、底土など）。岸付近の浅所の底質は起伏に富んだ岩礁で、根が沖に向かって張り出している（ナズマド、イデサリ、アオゾミ、ジゴロウ、クソガ根、フナツケ、南原、八重根など）。根は水深20 m付近で急傾斜となり、そこで途切れる場合が多い。海岸は全般に波当たりが強いが、港湾区域内にやや内湾的な場所がある（神湊港や八重根）。また、岩礁で囲まれた半閉鎖的な浅い水域が一部に見られる（垂土、オヨギド、底土）。潮間帯には大小多数のタイドプールが形成される（ナズマド、大潟浦、垂土、底土など）。西山には河川がなく、海岸付近に淡水の湧水がある場所もある（アライケ、垂土、底土、大潟浦、ヤケンヶ浜など）。

一方、南東側に位置する東山（三原山）は、約4000年前に活動を停止しており（津久井ほか，1991）、海岸は浸食を受けて高い海食崖が発達している。岸付近の浅所には、海食崖から供給されたとされる巨大な石が積み重なっており（黒崎、中越、今根、大根、御正体根など）、潮間帯には転石が多く、タイドプールがみられる場所は少ない。沖側は比較的起伏の少ない岩礁が広がる（今根、大根、御正体根）。東山側には常時水の流れる河川があるが、河口部には内湾的な地形は見られない。八丈小島は独立した成層火山で、島の北東と南西側には海食崖が発達している。宇津木やトウモジなどでは水深12 m付近から砂底が広がっている。

方 法

調査はタイドプールを含むスキューバで潜水可能な水深約50 mまでの沿岸で行った（図1および2）。写真はスチールカメラで水中撮影されたものが大部分であるが、岸から釣りや手網で採集された魚を陸上で撮影したものも一部含んでいる。写



図2. 調査地点.

真には撮影場所、撮影水深、撮影日、撮影者を付記し、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベースに登録した。このデータベースでは、登録された写真資料1点ごとに固有な資料番号が与えられ、7桁の資料番号の前にそれが同博物館の魚類写真資料データベースの資料であることを示す識別記号、「KPM-NR」が付記される。ただし、本文中ではスペースの節約のため、例えばKPM-NR0004278はKPM-NR4278と略記した。

結果は表1にまとめて示した。目、科、種の分類は中坊編(1993)に準拠し、種は学名のアルファベット順に配列した。ただし、標準和名から中坊編(1993)によって学名を知ることができる場合がほとんどなので、一部の例外を除き学名は省略した。なお、表中の写真資料番号の後ろの丸括弧内の記号は撮影者のイニシャルである：AY：安田明子；HK：小林 裕；HT：高須英之；JO：奥野淳兒；JY：八木下 潤；KF：古瀬浩史；KK：菊池和仁；MaK：菊池正勝；MeK：木村めぐみ；OH：小川秀樹；SK：加藤昌一；TaK：菊池 健；ToK：栗田知美；YM：森 由香；YF：深沢安雄。

結 果

撮影された魚は16目82科482種および若干の未同定種である(表1)。これらの中で、中坊編(1993)に収録されていない種、未同定種、および分類学的に問題のある若干の種等について補足しておく。

シュモクザメ属の1種：この属の魚の同定には背面から見た頭部の形態が重要であるが、水中写真ではその確認が難しい。撮影された個体は腹鰭が鎌状になっていないことから、少なくともヒラシュモクザメではない。おそらく南日本では普通種のアカシュモクザメと思われる。

Gymnothorax melatremus Schultz, 1953 (KPM-NR4290)：体色がほぼ一様に橙色であることや、眼に黒い横帯があることから容易に本種に同定される(Myers, 1989; Randall et al., 1990)。本種は日本からの正式な記録(標本に基づく記録)がないため、標本の採集が急務である。

モヨウキカイウツボ：山川ほか(1994)により日本初記録として報告された種で、淡色の地に大小の濃褐色斑があるなど、独特な色彩で容易に同定される。

キビナゴ属の1種：体形から本属魚類であることは明らかであるが、体側の銀色の縦帯の有無が

写真からは正確に確認できないため、種レベルの同定ができなかった。おそらくサンゴ礁域に生息するミナミキビナゴと思われる。

メシマウバウオ属の1種：本属魚類の分類学的研究は遅れており、写真からの正確な同定は困難である。

トビウオ科の1種：本科魚類は写真からの同定がきわめて困難である。

フサカサゴ属およびその近似属魚類：フサカサゴ属、マダラフサカサゴ属、ネッタイフサカサゴ属には多数の種が含まれ、種の識別には頭部の棘や鋸歯の状態が重要視されている。しかし、写真ではこれらの特徴が正確に確認できないことに加えて、各種の色彩的特徴が明らかにされていないため、写真からは種はおろか属レベルの同定すら困難である。

オニカサゴ属：オニカサゴとその近似種の分類学的研究は遅れており、現状では同定がきわめて困難である。

オシアレハナダイ：瀬能・湯野川(1995)により日本初記録として報告された種で、独特な色彩により同定は容易。同報告の中でも八丈島で撮影された本種の水中文が掲載された。

ヒカリイシモチ属の1種：ヒカリイシモチあるいはマジマクロイシモチと思われるが、写真から同定のための十分な情報が得られない。

シマアジ：日本でシマアジと同定されているものには、きわめて近似した2種が含まれていることが最近の遺伝学的研究で明らかにされた(Yamaoka et al., 1992)。両種が写真で確認できる特徴により識別できるかどうかは不明である。

イスズミ属の1種：撮影された個体は幼魚のため、種レベルでの同定が困難である。頭部の形態やや鰭の形はノトイスズミに似ている。

Chromis acares Randall et Swerdloff, 1973 (KPM-NR4492)：Allen (1991)により、容易に本種に同定されるが、日本からの正式な記録はまだない。本種については著者のひとり瀬能が小笠原諸島産の標本に基づき報告を行う予定である。

スズメダイ科の1種：鰭や体全体が山吹色をしている。既知種の色彩変異と思われるが、写真からの正確な同定は困難。

ヒメゴンベ：瀬能ほか(1993)により再同定された種で、鰓蓋や尾鰭の色彩で他種との区別は容易。

ミギマキ×タカノハダイ：色彩的特徴から、両

種の自然交雑種と考えられる。

モチノウオ属の1種：撮影された個体は幼魚であること、本属の分類学的研究はきわめて遅れていることなどから、正確な同定はきわめて困難である。

トモシビイトヒキベラ：瀬能・加藤（1995）により、八丈島産の標本に基づき日本から正式に記録された。色彩により同定は容易。

ベニヒレイトヒキベラ：Randall（1992）および瀬能（1993）により同定された。

テンス属の1種：撮影された個体は幼魚であること、本属魚類の分類学的研究は著しく遅れていることから、正確な同定は困難である。

ブダイ属の1種：幼魚のため、正確な同定は困難である。

オビシメ：Randall and Earle（1993）により本種に同定された。撮影された個体は雄成魚で、和名の由来となった体側の横帯が目立つ。

アオブダイ属魚類幼魚：本属魚類の幼魚の同定は、特別な色彩をもつものを除き、きわめて困難である。

コクテントラギス：益田ほか編（1984：pl. 260-F）により図示された個体によく一致する。カモハトラギスとの比較検討が必要である。

ヘビギンポ科魚類：多数の属および種を含み、撮影された個体にも複数属、複数種が含まれていることは明らかである。しかし、本科魚類は分類学的な研究がまだ十分に行われていないため、その同定はきわめて困難である。

コケギンポ属魚類：頭部の皮弁の状態から、撮影された個体には明らかに2種含まれている。しかし、本属魚類の分類学的研究はまだ不十分な点が多く残されており、正確な同定は困難である。本属魚類の水中あるいは写真での識別方法について研究を進めている千葉県立中央博物館の藍澤正宏氏により、KPM-NR4629はアライソコケギンポ、KPM-NR4630はシズミイソコケギンポに同定された。

スジタテガミカエルウオ：八丈島で撮影された本種の写真が瀬能・加藤（1994）により報告された。

ダテハゼ属の1種：Kuitert（1992：p. 225-A）や益田・小林（1994：p. 364-⑧）に図示された種と同じと思われる。

ガラスハゼ属の1種：頭部の形態や体の大きさからオオガラスハゼと思われるが、生時の色彩に

よるホソガラスハゼとの識別点が不明確である。

イソハゼ属魚類：複数種が含まれていることは明らかであるが、分類学的研究はまだ遅れており、正確な種の同定はきわめて困難である。

コバンハゼ属魚類：分類学的研究は著しく遅れており、正確な同定はきわめて困難である。

ウミショウブハゼ属の1種：アカスジウミタケハゼと思われるが、写真による近似種との識別方法が明確でないため、未同定とした。

オヨギベニハゼ：島田・吉野（1994）により日本初記録種として報告され、同報告中で八丈島で撮影された本種の写真が紹介されている。

クロユリハゼ属の1種：ハナハゼに近似するが、尾鰭鰭条が糸状に伸長していない。標本の詳しい調査が急務である。

カマス属の1種：体側に1縦帯が認められるため、アカカマスまたはタイワンカマスと思われるが、正確な同定は困難である。

Samariscus triocellatus Woods, 1966（KPM-NR5577）：Woods（1966）やRandall *et al.*（1990）により、容易に本種に同定される。本種は日本から未記録なので、正式な報告のために標本の採集が急務である。

おわりに

琉球列島から九州や四国、紀伊半島沿岸を経て相模湾に至る海域と、相模湾から八丈島を含む伊豆諸島を経て小笠原諸島に至る海域は、黒潮と関連する魚類の分散現象、あるいはプレートテクトニクスと関連する分断現象などの研究の場としてきわめて興味深い地域である。しかしこれらの多くの地域では、ダイビングの歴史が浅いことに起因して、岩礁とその隣接する砂底などに生息する多数の小型魚類に関する調査がきわめて不十分であり、生物地理学的考察の基礎となる魚類目録すら整備されていない現状にある。今回実施した調査の結果は、若干の未同定種を含み、また、目視確認はされているが映像化されていないもの（現時点で約100種）は除外されている。しかし、沿岸に生息し、普通に観察される魚類の大部分を目録化することができたと思われる。確認された魚種の中には、現時点で八丈島が分布の北限となったものもある。しかし、隣接する他の島や伊豆半島の沿岸などの調査が不十分な現状では、魚種を目録化するにとどめ、生物地理学的な考察は今後

の課題としたい。

魚類相の調査に写真を使う方法は、岩穴の奥や転石下に潜むなど、隠遁生活を送る魚類、あるいは表・中層を高速で回遊する魚類には不向きである反面、岩礁の周辺や砂底上で活動する多くの魚類では、標本を採集することなく容易に記録することが可能であり、しかも目視確認よりも信頼性の高い同定結果が得られる。さらにこれらの画像を公的な機関で画像をデータベース化し、標本と同じような取扱いをすれば、同定に疑問が生じた際には誰もが容易に再検討を行うことができる。これまでも水中写真を利用した魚類相調査が実施されたことはあるが（例えば福田，1992），写真資料の保管方法に「魚類写真資料データベース」のようなシステムはとられていない。また，写真資料の客観性はきわめて高いため，撮影者の魚に対する同定能力とは無関係に記録を蓄積することが可能である。このことに関連して，調査に一般の参加を得ることによる自然教育的な効果も見逃せない。今後，当地域での継続調査はもちろん，同様な取り組みが他地域でも行われることが期待される。

謝 辞

水中写真を提供された高須英之氏（東京都八丈島），菊池和仁氏（東京都八丈島），栗田知美氏（東京都八丈島），菊池正勝氏（東京都八丈島），森 由香氏（神奈川県横浜市），安田明子氏（東京都品川区），小林 裕氏（品川水族館），木村めぐみ氏（東京都武蔵野市），小川秀樹氏（神奈川県横浜市），奥野淳児氏（千葉県立中央博物館），ならびに深沢安雄氏（静岡県伊東市），標本や有益な情報を提供された八木下 潤氏（八丈ビジターセンター），本調査に様々なかたちで惜しみない協力をされた八丈島自然ガイド研究会の方々，コケギンボ属魚類の同定に関して有益な助言をされた藍澤正宏氏（千葉県立中央博物館），画像データの入力やデータベースシステムの運用面でお世話になった鈴木智明氏ならびに押小路珠左氏（神奈川県立生命の星・地球博物館）に対して，謹んで感謝の意を表する。

引用文献

- Allen, G. R., 1991. Damselfishes of the world. MERGUS Publ. H. A. Baensch, Melle, Germany, 271 pp.
- 福田照雄, 1992. 1年間で332種を記録！ー串本でダイバーが撮影した魚. 海中公園情報, (95): 3-7.
- Kuiter, R., 1992. Tropical reef-fishes of the western Pacific Indonesia and adjacent waters. PT Gramedia Pustaka Utama, Jakarta, xiii + 314 pp.
- 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, 1984. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京, xx + 448 pp., 370 pls.
- 益田 一・小林安雅, 1994. 日本産魚類生態大図鑑. 東海大学出版会, 東京, 47 + 465 pp.
- Myers, R. F., 1989. Micronesian reef fishes: A practical guide to the identification of the coral reef fishes of the tropical central and western Pacific. Coral Graphics, Guam, vi + 298 pp., 144 pls.
- 中坊徹次編, 1993. 日本産魚類検索：全種の同定. 東海大学出版会, 東京, xxxiv + 1474 pp.
- Randall, J. E., 1992. A review of the labrid fishes of the genus *Cirrhitilabrus* from Japan, Taiwan and the Mariana Islands, with descriptions of two new species. *Micronesica*, 25 (1): 99-121, pls. 1-3.
- Randall, J. E., G. R. Allen and R. C. Steene, 1990. Fishes of the Great Barrier Reef and Coral Sea. Crawford House Press, Bathurst, NSW, xx + 507 pp.
- Randall, J. E. and J. L. Earle, 1993. *Scarus obishime*, a new parrotfish (Perciformes: Scaridae) from the Ogasawara Islands. *Japan. J. Ichthyol.*, 39 (4): 287-293.
- 瀬能 宏, 1993. ベニヒレイトヒキベラ（新称）. 伊豆海洋公園通信, 4 (4): 1.
- 瀬能 宏, 1994. あなたの水中写真を博物館に登録してませんか. 神奈川県立博物館だより, 27 (1): 4-5.
- 瀬能 宏・荒賀忠一・吉野哲夫, 1993. 日本初記録のフタホシゴンベ（新称）とヒメゴンベの再同定. 伊豆海洋公園通信, 4 (12): 2-5.
- 瀬能 宏・加藤昌一, 1994. スジタテガミカエルウオ. 伊豆海洋公園通信, 5 (10): 1.
- 瀬能 宏・加藤昌一, 1995. 八丈島で採集されたトモシビイトヒキベラ（新称）. 伊豆海洋公園通信, 6 (11): 2-4.
- 瀬能 宏・森田康弘, 1995. 小笠原諸島で採集されたカレハスズメダイ（新称）. 伊豆海洋公園通信, 6 (12): 2-3.
- 瀬能 宏・湯野川 恭, 1995. 西部太平洋から初記録のオシャレハナダイ（新称）. 伊豆海洋公園通信, 6 (9): 4-6.
- 島田和彦・吉野哲夫, 1994. 新顔のイソハゼ属・ベニハゼ属およびその近縁種（IV）. 伊豆海洋公

- 園通信, 5 (5) : 2-6.
- 東京都防災会議編, 1990. 伊豆諸島における火山噴火の特質等に関する調査・研究報告書 (八丈島編). 東京都防災会議, 65 pp.
- 津久井雅志・森泉美穂子・鈴木将志, 1991. 八丈島東山火山の最近 22,000 年間の噴火史. 火山, 36 (3) : 345-356.
- Woods, L. P., 1966. Family Pleuronectidae. Pages 66-68 in L. P. Schultz, L. P. Wood and E. A. Lachner. Fishes of the Marshall and Marianas Islands. Bull. U. S. Nat. Mus., (202) .
- 山川 武・瀬能 宏・行平英基・小野篤司, 1994. 日本より初記録のモヨウキカイウツボ (新称). 伊豆海洋公園通信, 5 (2) : 2-5.
- Yamaoka, K., H.-S. Han and N. Taniguchi, 1992. Genetic dimorphism in *Pseudocaranx dentex* from Tosa Bay, Japan. Nippon Suisan Gakkaishi, 58 (1) : 39-44.
- (古瀬：東京都八丈ビジターセンター；瀬能：神奈川県立生命の星・地球博物館；加藤・菊池：八丈島自然ガイド研究会)

表1. 魚類写真資料データベース (KPM-NR) に基づく八丈島産魚類目録

目	科	種	資料番号 (KPM-NR)	備 考
メジロザメ目	シュモクザメ科	シュモクザメ属の1種	4278(SK), 5632(SK)	黒潮の流路が八丈島に接近している時期に出現する。アカシュモクザメと思われる。
エイ目	ウチワザメ科	ウチワザメ	4279(SK)	砂底。水温の低い時期に出現する。ときに群れる。
	ヒラタエイ科	ヒラタエイ	5643(KF)	砂底。
	アカエイ科	ヤッコエイ	4280(SK)	砂底。普通にみられる。
		ホシエイ	4163(SK), 5641(SK)	稀。
		マダラエイ	4281(TaK)	エイ類の中では最も普通。1mをこえる大型個体もしばしば観察される。
ウナギ目	ウツボ科	クモウツボ	5075(KF)	きわめて稀。写真の個体が大湯涌のタイドプールで観察されたほか、1995年春にアライケでも観察例がある。
		ゼブラウツボ	5654(HT)	タイドプールから水深20mまでの岩礁の穴の中に稀にみられる。
		コケウツボ	4283(SK)	岩礁に普通。
		ヘリシロウツボ	5644(KF)	稀。八重根の湾内などで観察された。
		ワカウツボ	4284(KF)	岩礁に多い。ウツボ類では特に多い。
		ヘリゴシウツボ	4287(AY)	一度（撮影時）に観察されたのみ。
		ウツボ	4285(TaK)	岩礁に多い。
		ニセゴシウツボ	4286(KF)	ナズマドなどで大型の個体が継続的に観察されている。
		<i>Gymnothorax melatremus</i> Schultz, 1953	4290(MaK)	岩礁域の小さな岩穴に生息するが稀。
		トラウツボ	4282(TaK)	岩礁に普通にみられる。
		サビウツボ	4289(TaK)	岩礁域でみられるが、少ない。
		モヨウキカイウツボ	4288(KF)	ナズマドの水深15mの洞穴内の岩穴で一度観察されたのみ。目立たない場所にいるので、いつもいるのかどうかはわからない。
	ウミヘビ科	モヨウモンガラドオシ	4291(KF)	1993年12月21日、八重根の水深10mで観察された。
		モンガラドオシ	4292(SK)	砂底にきわめて稀にみられる。
	アナゴ科	ハナアナゴ	4293(TaK), 4294(SK)	砂底に普通。
		クロアナゴ	4295(SK)	稀。
		シンジュアナゴ	5681(SK)	八丈小島宇津木やナズマドなどの砂地に集団で生息。
ニシン目	ニシン科	キビナゴ属の1種	4296(KF), 5618(FK)	大きな群で遊泳する。ミナミキビナゴと思われる。
ナマズ目	ゴンズイ科	ゴンズイ	4297(KF)	やや内湾の砂底、砂の混じる礫底に普通。群がりを作る。
ヒメ目	エソ科	マダラエソ	4301(SK)	神湊港内の砂泥底などで観察されている。
		ミナミアカエソ	4299(KF)	水中での識別が難しく、複数種を混同している可能性がある。
		オグロエソ	4300(KF)	幼魚の観察例がある。
		アカエソ	4298(SK)	魚食性。捕食行動がよく観察される。エソ科では最も普通種。
アンコウ目	イザリウオ科	ウルマイザリウオ	4306(SK)	1995年3月2日に八重根の水深15mで観察され、同年6月まで継続してみられた。
		オオモンイザリウオ	4302(SK)	やや稀。カイメンなどの付着生物の多い岩礁でみられる。
		クマドリイザリウオ	4305(SK)	
		イロイザリウオ	4303(SK), 4304(ToK)	イザリウオ類の中では観察例が多い。
ウバウオ目	ウバウオ科	ハシナガウバウオ	5640(KF)	岩穴の中のガンガゼの棘間に寄居。少ない。
		ミサキウバウオ	5689(SK)	浅所の転石下で観察例がある。
		メシマウバウオ属の1種	4307(KF), 5617(ToK)	浅所の岩礁上でみられ、スズメダイ類の卵を盛んに採餌する。写真からの正確な同定は困難。
		ホソウバウオ	5648(KF)	浅所の岩礁上でみられる。
ダツ目	トビウオ科	トビウオ科の1種	4308(SK)	水面直下を遊泳する。写真からの正確な同定は困難。
	ダツ科	テンジクダツ	4309(SK), 5649(KF)	八重根で釣獲されたものを同定。
アカマンボウ目	クサアジ科	ヒメクサアジ	4310(SK)	低水温期にしばしば観察される。
キンメダイ目	マツカサウオ科	マツカサウオ	4311(SK)	岩穴や岩の亀裂内にみられるが八丈では稀。
	イトウダイ科	アカマツカサ	4316(MeK)	屋間は岩礁の横穴の暗がりに普通。
		キビレマツカサ	4315(SK)	やや深い（20m以深）岩礁の横穴に複数でいる。やや稀。
		ウロコマツカサ	4314(SK)	稀。ウロウ根およびヤケンヶ浜で一時期みられた。
		ヤセエビス	4317(TaK)	やや稀。岩礁の横穴や巨石の隙間などにみられるが、他のイトウダイ科の魚類と同じ穴にいることは少ない。
		テリエビス	4312(TaK), 4313(SK)	屋間は岩穴の中にいる。
ヨウジウオ目	ヘラヤガラ科	ヘラヤガラ	4318(SK)	普通種。1m以上の大型個体もしばしばみられる。
	ヤガラ科	アオヤガラ	4319(KF)	普通種。1m以上の大型個体もしばしばみられる。ヘラヤガラに比べると中層から表層に多いことが多い。
	カミソリウオ科	カミソリウオ	4320(SK)	やや稀。転石の混ざる砂底にペアでいる場合が多い。
	ヨウジウオ科	タツノイトコ	4324(SK)	稀。
		イシヨウジ	5634(KF)	複数種を混同している可能性がある。
		ヒバシヨウジ	4321(SK)	小さい岩穴の中にやや稀。ガンガゼの棘間にあることがある。
		ノコギリヨウジ	4322(KF)	小さい岩穴の中に普通。前種同様ガンガゼの棘間にあることがある。
		オイランヨウジ	4323(SK)	小さい岩穴の中で稀に観察される。
カサゴ目	フサカサゴ科	ヒレボシミノカサゴ	4336(ToK)	岩礁の岩穴などに稀にみられる。
		キリンミノ	4335(KF)	岩陰などでしばしば観察される。同じ場所でもペアが1年以上継続して観察されたことがある。
		ネッタイミノカサゴ	4333(SK)	岩陰など、やや暗いところに単独でいることが多い。
		キミオコゼ	4334(SK)	岩礁にやや稀。
		ハナミノカサゴ	4332(KF)	岩礁や転石に多い。近縁のミノカサゴは観察例がない。着底していることは少なく、中層に浮いている。
		ニセボロカサゴ	4802(HK), 5647(HK)	撮影時に観察されたのみ。

スズキ目	フサカサゴ属および近似属魚類		4326(SK), 4328(KF), 4329(TaK), 5624(HT)	属や種の識別はきわめて困難。
	イソカサゴ		4172-4174(SK), 4325(TaK)	岩礁の穴の中などに普通。
	ヒメサンゴカサゴ		5620(HT)	
	サツマカサゴ		4331(KF)	やや波当たりの弱い砂の混じる浅所にみられる。
	オニカサゴ属魚類		4179(SK), 4330(TaK), 5585(SK), 5587(SK)	種の識別はきわめて困難。
	オニオコゼ科	カスリフサカサゴ	4327(SK)	底土水深13mの石サンゴの隙間で一時期観察された。
		カサゴ	5679(SK)	岩礁に多い。
		ハダカハオコゼ	4337(SK)	岩礁上に稀にみられる。色彩の変異が大きい。
		オニダルマオコゼ	4338(SK)	極めて稀。
	ハオコゼ科	ツマジロオコゼ	4339(KF)	やや内湾の砂底、砂泥底にみられる。
	ダンゴオコゼ科	ダンゴオコゼ	4340(SK)	1994年に大潟浦、1995年にイデサリで、それぞれ1個体が一時期みられたのみ。石サンゴ類の枝間にみられた。
	ホウボウ科	ホウボウ	4341(SK)	低水温期にのみ出現する。
	コチ科	クロシマゴチ	4808(SK), 5671(SK)	岩礁と砂底の境目付近で稀に観察される。
	ハタ科	アカイサキ	4348	水深40m付近で観察例がある。
		ユカタハタ	4344(SK)	やや稀。
		クエ	4346(SK)	数は多くないが、決まった場所で継続的に観察される。
		アカハタ	4345(TaK)	浅場から深場まで多くみられる。
		マダラハナダイ	4350(KF)	1993年ナズマド水深18mの岩礁の横穴で、若魚が一時期観察されたのみ。
		コスジハナズキ	4347(TaK)	岩礁の小さくて奥の深い岩穴にすみ、明るいところでは観察されない。
		オシアレハナダイ	4175(SK), 4349(YF)	1995年5月、急斜面の岩礁の水深50mの地点で発見された。
		コクハンアラ	4343(KF)	幼魚が一度（撮影時）観察されたのみ。
		フタイロハナゴイ	4359	水深40m付近で一時期観察された。
		キンギョハナダイ	4355(SK), 4356	キンギョハナダイの群れに数個体混ざることがある。婚姻色の成魚もみられる。
カワリハナダイ科		スジハナダイ	4354(SK)	水深30m以深の岩だんでしばしば観察される。
		アサヒハナゴイ	4358(SK)	幼魚が数回観察された。
		ハナゴイ	4357(KF)	キンギョハナダイの群れに数個体混ざることがある。成魚もみられるが数は少ない。
		キンギョハナダイ	4353(KF)	水深10m以深の岩礁付近に数多く群れる。
		サクラダイ	4352(SK)	一時期（撮影時）観察されたのみ。
		ハナゴンベ	4351(SK)	水深20m以深の潮通しのよい場所にある岩礁の横穴などでみられる。
		バラハタ	4342(SK)	ナズマドなどのやや深い潮通しのよい岩礁にみられる。
	カワリハナダイ科	カワリハナダイ	4360(SK), 4361(SK)	撮影時に観察されたのみ。
	ヌノサラシ科	ルリハタ	5675(SK)	岩礁の裂け目などでみられるが多くない。
		ヌノサラシ	4362(KF)	昼間は岩穴の中に単独でいる場合が多い。ニシキベラやオトヒメエビを捕食しているところが観察されている。
タナバタウオ科		アゴハタ	5674(YM)	乙千代ヶ浜の水深40mで撮影時に観察されたのみ。
		ナカハラタナバタウオ	5630(HT)	浅所の転石下や岩穴でみられる。
	ユゴイ科	ギンユゴイ	4363(KF), 5074(KF)	波打ち際の水面下に普通。タイドプールにも入る
	キントキダイ科	ゴマヒレキントキ	4364(KF), 4366(SK), 4807(SK)	水深15m以深のやや奥が深い岩穴の中でみられる。
テンジクダイ科		ホウセキキントキ	4365(KF)	数個体の群れでいることが多い。体色を変える。
		ウスジマイシモチ	4378(KF)	昼間は岩穴の中。単独でいることが多い。
		アオハナテンジクダイ	4372(KF)	昼間は水深20m前後の岩穴の中にある。20個体以上で群がりを作る。
		アオスジテンジクダイ	4373(KF)	昼間は水深20m前後の岩穴の中にある。アオハナテンジクダイほど大きな群がりを作らない。
		オオスジイシモチ	4375(KF)	昼間は岩穴の中。単独でいることが多い。
		ヒトスジイシモチ	4380(KF)	稀。
		カスリイシモチ	4379(SK)	奥行きが深い岩穴の中に単独でいることが多い。
		ミナミフトスジイシモチ	4376(TaK), 4377(TaK)	昼間は岩穴の中。単独でいることが多い。
		クロホシイシモチ	4371(KF)	岩穴の中で他のテンジクダイ科魚類と混在する。数は少ない。
		キンセンイシモチ	4374(KF)	昼間は岩穴の中。数個体で群がりを作ることがある。
キツネアマダイ科		アトヒキテンジクダイダマシ	4381(KF), 4382(TaK)	昼間は岩穴の中。単独でいることが多い。
		リュウキュウヤライシモチ	4369(KF), 4370(TaK)	昼間は大きめの岩穴で普通にみられる。
		ヤライシモチ	4368(TaK)	昼間は岩穴の中で単独もしくは数個体で観察される。
		ヒカリイシモチ属の1種	4367(KF)	ガンガゼにつく。
		ヤセアマダイ	4384(KF)	水深20以深の砂地でしばしばペアで観察される。
		キツネアマダイ	4383(SK)	幼魚はしばしば観察されるが成魚は稀。
	タカベ科	タカベ	4385(SK)	大きな群れを作る。
	アジ科	イトヒキアジ	4394(SK), 5667(SK)	稀に幼魚数個体で遊泳しているのが観察される。
		ナンヨウカイワリ	4393(SK)	数個体の群れで観察される。小型魚の群を襲い捕食する。
		カッポレ	4392(SK)	高水温期のみ稀に観察される。
		クサヤモロ	4390(SK), 5619(KF)	砂底で採餌しているのを観察することがある。
		ツムブリ	5635(KK)	水温の高い時期に潮通しのよい場所で観察される。ヒレナガカンパチと混群を作る場合がある。
		シマアジ	4391(SK)	小型の個体の数個体の群れが砂地で観察されることがある。大型の個体は単独で稀に観察される。
		カンパチ	4386(SK), 4387(SK)	ヒレナガカンパチにくらべると数が少ない。

	ヒレナガカンパチ	4388(SK), 4389(TaK)	数~十数個体の群れを作り、タカベなどを捕食する。
シイラ科	シイラ	5064(KF)	幼魚が流れ藻やタイドプールの中に観察される。
フエダイ科	イシフエダイ	4395(TaK)	潮通しのよい根の周辺で単独で観察される。
	オオグテシチビキ	4396(SK)	一時期海底のアーチの下に数個体みられたが、その後ほとんど観察されない。
	バラフエダイ	4398(KF)	幼魚が遊泳性のスズメダイの群がりに混ざる。大型の個体は観察されない。
	オキフエダイ	4401(SK)	漁港内の砂泥底でしばしば観察される。
	ヒメフエダイ	4402(MeK)	幼魚は浅所に普通。成魚は観察例がない。
	ヨスジフエダイ	4403(SK)	砂地にある根や岩礁と砂地の境などに数個体から数十個体群がる。幼魚は浅く閉鎖的な砂泥底などで観察される。
	イッテンフエダイ	5657(SK)	神湊港内で観察例がある。
	フエダイ	4399(TaK), 4400(KF)	特定の場所では継続的に観察されているが、数は少ない。幼魚はタイドプールでみられる。
	マダラタルミ	5655(HT)	幼魚が稀に観察される。
タカサゴ科	ウメイロ	4397(KF)	水深15m以深で群れが観察される。八丈ではウメイロモドキより多い。
	ササムロ	4404(SK)	
	ウメイロモドキ	4405(SK)	5~10個体程度の群れが稀にみられる。
マツダイ科	マツダイ	5638(KF)	流れ藻の中に幼魚がみられる。
クロサギ科	クロサギ	5650(KF)	浅所の転石の混じる砂底・砂泥底に普通。砂の中の餌をとる。
イサキ科	コロダイ	4409(SK)	成魚はしばしば観察されるが幼魚は稀。
	イサキ	5683(SK)	水温の低い時期には大きな群れが現れることもある。
	ヒレグロコショウダイ	4406(KF), 4408(SK)	幼魚から成魚まで普通。
	ムスジコショウダイ	5656(HT)	幼魚から成魚までみられるが、ヒレグロコショウダイより少ない。
	アジアカショウダイ	4407(KF)	幼魚から成魚まで普通。
イトヨリダイ科	イトタマガシラ	4410(SK)	時折、浅い砂地で観察される。
	フタスジタマガシラ	4411(TaK)	水温の高い時期に稀に観察される。
タイ科	マダイ	4412(TaK)	稀に砂地で観察されるが少ない。放流もされている
フエキダイ科	ノコギリダイ	4414(SK)	限られた場所で小さい群れが観察される。
	メイチダイ	4415(KF), 5651(KF), 5652(SK)	浅い砂地で成魚が普通に観察される。幼魚はちぎれた海藻の溜まりにみられ海藻によく似ている。
	ハマフエフキ	4416(TaK)	70cm以上の大型個体が普通に観察される。
	ヨコシマクロダイ	4413(TaK)	水温の高い時期に幼魚が毎年観察される。
ヒメジ科	モンツキアカヒメジ	4417(KF)	砂地で小さな群をつくる。
	アカヒメジ	4418	ときおり数十個体の群れが観察されることがある。
	インドヒメジ	5666(SK)	ベラやヒメジ類の幼魚の混群に混ざっているのが観察されたことがある。
	オオスジヒメジ	4422(KF)	一時期、幼魚が閉鎖的な浅所で観察されたのみ。
	ホウライヒメジ	4420(KF)	ヒメジ類では最も普通。
	マルクチヒメジ	4423(SK)	10cm程度の幼魚が稀に観察される。黄化個体も観察例がある。
	コバンヒメジ	4421(SK)	稀。小型個体は閉鎖的な海域でベラ類と混泳していた。
	オジサン	4424(KF)	幼魚から成魚まで普通。
	オキナヒメジ	4419(SK)	稀に観察される。ホウライヒメジにくらべると数は極端に少ない
ハタンボ科	キンメモドキ	4425(KF)	初夏、大きな群がりが出現するが肉食魚の捕食を受け日を遡うごとに数が減少していく。年によって数の変動が大きい。
	ツマグロハタンボ	4426(SK)	昼間は岩穴の中にいる。あまり大きな群はつくらない。
	リュウキュウハタンボ	4428(TaK)	
メジナ科	ミナミハタンボ	4427(KF)	昼間は岩穴で大きな群れを作る。標本あり。
	クロメジナ	4429(KF), 4430(JY)	岩礁域に普通。幼魚はタイドプールにみられる。
	オキナメジナ	4431(KF)	幼魚はタイドプールや波打ち際に普通。
	メジナ	5631(KF)	稀。クロメジナ比べると少ない。
イスズミ科	イスズミ属の1種	4433(SK)	ノトイスズミの可能性が高い。
	ミナミイスズミ	4432(SK)	
	イスズミ	4797(SK)	イスズミとミナミイスズミの水中での識別は困難。
カゴカキダイ科	カゴカキダイ	5639(KF)	タイドプールや浅所に普通。
スダレダイ科	ツバメウオ	4434(SK)	成魚がやや稀に観察される。ときおり30個体以上の大きな群れがみられる。
チョウチョウウオ科	カガミチョウチョウウオ	4439(KF)	多くのダイビングポイントで周年観察できる。個体数も多い。
	トグチョウチョウウオ	4440(SK)	毎年みられるが低水温期にはみられなくなる。ペアで観察されることが多い。
	チョウチョウウオ	4443(SK)	本科中で最も普通。秋に数十個体の群れが観察されることがある。
	ゴマチョウチョウウオ	4447(KF)	浅所の岩礁域に単独で観察されるが少ない。
	ユウゼン	4446(KF)	通常ペアか単独だが、6月ごろ大きな集団をつくることもある。
	ミソレチョウチョウウオ	4448(KF)	岩礁域で普通にみられる。
	チョウハン	4442(SK)	小型個体が岩礁域でしばしば観察される。
	アケボノチョウチョウウオ	4449(SK)	神湊港内などで稀に観察される。
	シラコダイ	4450(KF)	やや深めの水深に普通。周年観察される。
	ハナグロチョウチョウウオ	4445(SK)	小型の個体が稀に観察される。
	スミツキトノサマダイ	4437(SK)	サンゴの豊富な場所で稀に観察される。
	シチセンチョウチョウウオ	5658(HT)	しばしば観察されるが、個体数は少ない。
	ヤリカタギ	4436(SK)	大きな造礁サンゴ群体のまわりで稀に観察される。
	ミスジチョウチョウウオ	5659(HT)	生きた造礁サンゴの周辺で幼魚が稀に観察される。
	イッテンチョウチョウウオ	4438(SK)	小型の個体が単独でいるのがときおり観察される。
	フウライチョウチョウウオ	4441(SK)	幼魚は毎年タイドプールや浅所でみられるが、成魚は少ない。
	ツキチョウチョウウオ	4444(SK)	ナズマドで5年以上継続的に観察されている。

キンチャクダイ科	タキゲンロクダイ	5660(HT)	水深30m以深で周年みられるが数は少ない。
	フエヤッコダイ	4435(KF)	岩礁域に普通。ペアでいることが多い
	カスミチョウチョウウオ	4455(TaK)	潮通しのよい根の先端付近にみられることがある。
	ハタタテダイ	4451(MeK)	大型の個体がペアで観察される。
	ミナミハタタテダイ	4454(SK)	造礁サンゴの豊富なポイントで稀に観察される。
	オニハタタテダイ	4452(SK)	ナズマドでは大型のペアが同じ根の付近で数年以上継続して観察されている。
	シマハタタテダイ	4453(SK)	稀。
	シテンヤッコ	4461(SK)	水深30m以深の岩礁域にみられるが数は少ない。
	ソメウケヤッコ	4467(SK)	未成魚が稀に観察される。
	ルリヤッコ	4471(SK)	岩礁域で稀に観察される。
	アカハラヤッコ	4470(SK)	キンチャクダイ科でレンテンヤッコに次いで多い。
	チャイロヤッコ	4469(TaK)	水深25m以深の砂の混ざる斜面に普通。
	ヘラルドコガネヤッコ	4466(SK)	岩礁域のやや開放的なところを広範囲に泳ぎまわる。
	レンテンヤッコ	4468(KF)	キンチャクダイ科では最も多い。
	アブラヤッコ	4464(SK)	潮通しのよい岩礁域で普通。
	ナメラヤッコ	4465(SK)	潮通しのよい岩礁域でやや稀。
	タテジマヤッコ	4460(SK)	沖が急深になっている岩礁域にみられるが少ない。
	トサヤッコ	4458(KF)	沖が急深になっている岩礁域の水深15m以深に普通。
	ヒレナガヤッコ	4459(SK)	水深30m以深で幼魚が稀にみられる。雌成魚も観察されたこともある。
	スミレヤッコ	4462(SK)	水深20m以深の岩礁の洞穴内にみられる。
カワビシャ科	タテジマキンチャクダイ	4456(KF)	岩礁に普通。
	サザナミヤッコ	4457(KF)	岩礁に普通。
	ニシキヤッコ	4463(SK)	潮通しのよい岩礁域の洞穴内で未成魚が稀にみられる。
	テングダイ	4472(KF)	岩礁域に二個体から数個体でいることが多い。
イシダイ科	イシダイ	4473(KF)	岩礁域にみられるが少ない。
	イシガキダイ	4474(SK)	岩礁域にみられるが少ない。
スズメダイ科	ロクセンスズメダイ	4505(KF)	タイドプールや浅所にみられる。
	イソスズメダイ	4502(KF)	タイドプール内に小型の個体がみられる。
	シマスズメダイ	4503(SK)	タイドプールや波打ち際にみられる。
	オヤビッチャ	4504(SK), 5062(KF), 5063(KF)	浅所に普通。94年は水深6mにあるケーソンの土台で大量に繁殖していた。
	クマノミ	4475(KF)	サンゴイソギンチャクに多くみられる。
	<i>Chromis acares</i> Randall et Swerdloff, 1973	4492(SK)	1994年8月にナズマドで観察された。
	シロボシスズメダイ	4477(TaK), 4478(SK)	岩礁域の岩陰などになわばりをもつ。普通種。岩に生みつけられた卵が観察されている。
	オナガスズメダイ	4487(TaK)	岩陰などのやや暗い場所に単独で普通にみられる。
	コガネスズメダイ	4480(SK)	やや深い水深のひらけた場所が多くみられる。卵を観察
	ヒレグロスズメダイ	4488(TaK)	潮通しのよい岩礁域の岩陰に小型の個体がみられる。やや稀
ゴンベ科	アマミスズメダイ	4481(KF)	岩礁域の中層で大きな群がりを作る。
	キボシスズメダイ	4484(KF)	岩礁域に大きな群がりをつくる。非常に多い。卵を観察。
	マツバスズメダイ	4485(KF)	少ない。小型個体がキボシスズメダイの群がりに混ざる程度。
	ササスズメダイ	4479(KF)	潮通しのよい岩礁域でキンギョハナダイ、ヤマシロベラなどと中層に群がる。
	フカミスズメダイ	4482(TaK)	水深40m以深で観察されたことがあるが生息状況は不明。
	シコクスズメダイ	4486(KF)	岩礁域に普通。
	スズメダイ	4483(SK)	岩礁域でキボシスズメダイの群がりに混ざって観察される。
	マルスズメダイ	4489(TaK)	岩礁域に稀。
	ヒメスズメダイ	4490(KF)	岩礁域に普通。大きな群がりは作らない
	タカサゴスズメダイ	5678(SK)	毎年少数が観察される。単独で他のスズメダイ類の群がりに混ざる。
	モンスズメダイ	4491(KF)	高水温期に幼魚が観察される。
	ネズスズメダイ	4508(KF)	高水温期に限りタイドプールにみられる。
	ミヤコキセンスズメダイ	4510(KF)	高水温期に限りタイドプールや浅所にみられる。
	レモンスズメダイ	4509(SK)	高水温期にみられることがある。
	セナキルリスズメダイ	4511(KF)	水深15mから20mの岩礁域に普通。追うと岩穴に隠れる。
	ミツボシクロスズメダイ	4476(KF)	サンゴイソギンチャク、ハタゴイソギンチャクに幼魚がみられる。成魚はイソギンチャクからはなれ単独でいる。岩に生みつけられた卵が観察されている。
	イワサキスズメダイ	4506(KF)	浅所のサンゴの死殻の隙間で稀に観察される。
	ルリホシスズメダイ	5661(HT)	高水温期に岩礁域の浅所で稀に観察される。
	ハクセンスズメダイ	4507(KF)	岩礁域のごく浅いところに普通。
	スズメダイ科の1種	4493(KF)	種の同定のための十分な情報が写真から得られない。
	メガネスズメダイ	4500(KF)	幼魚が稀に観察される。
ゴンベ科	オジロスズメダイ	4498(KF), 4499(KF)	浅所で稀に観察される。
	ソラスズメダイ	4495(SK)	転石や岩礁に普通。周年みられる。転石の下を掘って石の下部に卵を生みつける。
	アサドスズメダイ	4497(SK)	底土で一時期みられたのみ。
	ナガサキスズメダイ	4496(SK), 5642(KF)	岩礁や転石地に普通。
	クロメガネスズメダイ	4501(TaK)	成魚も観察されるが少ない。
	オキナワスズメダイ	4494	高水温期に少数観察されることがある。
	ミナミゴンベ	4515(SK)	岩礁域に普通。ゴンベ科で最も多い。
	サラサゴンベ	4516(KF)	岩礁域に普通だが、ミナミゴンベよりはやや少ない。

	ヒメゴンベ	4512(SK)	水深20m前後の岩礁にみられる。警戒心が強い。
	スミツキゴンベ	4513(KF)	岩礁にみられるが少ない。
	イソゴンベ	4520(TaK)	大潟浦の水深5m以浅で観察例があるが、他では観察されていない。
	ウイゴンベ	4519(SK)	水深30m以深の岩礁にみられる。他のゴンベ類と異なり着底せずに泳いでいることが多い。
	ベニゴンベ	4514(SK)	乙千代ヶ浜の水深12mで1年以上継続的に観察されているが、他の地点では観察例がない。
	メガネゴンベ	4518(ToK)	生きたサンゴの隙間でみられる。高水温期には普通。
	ホシゴンベ	4517(SK)	稀に生きたサンゴの隙間でみられる。
タカノハダイ科	ミギマキ×タカノハダイ	4522(SK)	雑種。
	タカノハダイ	4521(TaK)	水深20m以浅の岩礁域に周年みられる。多い。
ベラ科	ブチススキベラ	4538(SK)	幼魚から成魚まで浅所の岩礁域で普通に観察される。高水温期には雄も観察される。
	ムシベラ	4537(SK)	高水温期に幼魚がベラ類の混群に混ざって観察される。
	クロフチススキベラ	4541(SK)	水深20m以深の岩礁域で観察される。やや稀。
	ニューギニアベラ	4540(SK)	浅所の岩礁域で稀に観察される。
	ホシススキベラ	4539(SK)	岩礁の浅所に普通。
	ヒオドシベラ	4524(SK)	高水温期に幼魚が観察される。ヤギやイソバナの周りで観察されることが多い。
	スミツキベラ	4526(TaK)	岩礁域の岩穴中に幼魚から成魚まで普通にみられる。
	キツネベラ	4531(KF)	幼魚は毎年観察されるが成魚は少ない。
	フタホシキツネベラ	4528(SK)	水深30m以深の岩礁に普通にみられる。
	モンツキベラ	4527	幼魚が高水温期に毎年観察される。成魚は観察されていない。
	アカホシキツネベラ	5669(SK)	水深30m以深の岩礁域で普通に観察される。
	ヒレグロベラ	4532(SK)	高水温期に幼魚が稀に観察される。
	ケサガケベラ	4525(SK)	幼魚が岩礁域の岩穴の中にみられる。やや稀。
	キツネダイ	4533(SK)	水深25m以深で稀に観察される。
	タキベラ	4529(KF), 4530(KF)	通年観察される。成魚はすくない。
	タコベラ	4599(KF)	岩礁の浅所に普通。
	モチノウオ属の1種	5625(HT)	幼魚の同定はきわめて困難。
	ヒトスジモチノウオ	4159(SK), 4602(SK)	稀。
	カマスベラ	4542(KF)	幼魚から成魚まで岩礁の浅所に普通..
	イラ	4523(TaK)	個体数は多くないが通年みられる。
	ニシキイトヒキベラ	4171(SK), 4588(TaK), 4590(KF), 5682(SK)	水深15m以深の岩礁で観察されるが雄成魚は稀。
	ツキノワイトヒキベラ	4167-4169(SK), 4589(TaK)	ナズマドの水深40m付近で観察例がある。
	トモシイトヒキベラ	4591(SK), 4592(KF)	水深15m～20m付近の岩礁域にみられる。
	ベニヒレイトヒキベラ	4170(SK), 4587(SK)	水深25m以深で幼魚が稀に観察される。
	イトヒキベラ	4586(SK)	岩礁に普通。
	カンムリベラ	4575(KF), 4576(TaK)	成魚から幼魚まで岩礁域に普通。
	スジベラ	4579(KF)	岩礁や砂だまりに普通。
	ツユベラ	4578(KF)	幼魚は岩礁域で普通に観察されるが成魚は少ない。
	ムスメベラ	4577(KF)	幼魚が稀に観察される。他の魚のクリーニングをするのが観察された。
	クギベラ	5668(SK)	幼魚が浅所の造礁サンゴの周辺で普通にみられるが、成魚は稀。
	ニシキキュウセン	4570(KF)	岩礁の浅所に普通。
	コガネキュウセン	4571(KF)	岩礁域で観察されるが個体数は多くない。
	キスジキュウセン	4572(TaK)	幼魚が稀に観察される。
	トカラベラ	4566(SK)	岩礁の浅所で幼魚は普通。成魚は稀。
	ムナテンベラ	4567(SK)	岩礁域で普通に観察される。生息する水深の幅が広い。
	イナズマベラ	4569(SK)	高水温期に幼魚が転石の周辺などでみられる。成魚は稀。
	ツキベラ	4568(TaK)	やや潮通しのよい15m以深の岩礁域で観察される。
	キュウセン	4574(SK)	一時期観察されたのみ。
	セイテンベラ	4565(KF)	垂戸の閉鎖的な浅所で一度観察された。
	ホンベラ	4573(SK)	稀に単独で観察される。
	ミツボシキュウセン	4564(KF)	港内や岩礁で囲まれた閉鎖的な浅所で高水温期に観察される。
	シマタレクチベラ	4550(KF)	岩礁の浅所で幼魚が観察されるが、成魚はみられない。
	タレクチベラ	5670(SK)	幼魚が神湊で一時期観察された。
	ナメラベラ	4584(KF)	幼魚は15m以浅の転石や、砂と転石の混じる場所で観察される。2個体から数個体で観察されることが多い。
	シロタスキベラ	4585(KF)	幼魚は16m以浅の転石や、砂と転石の混じる場所で稀に観察される。
	ソメワケベラ	4554(SK)	普通に観察される。ホンソメワケベラより穴の奥にいる傾向がある。
	ホンソメワケベラ	4552(KF)	普通。
	ミヤケベラ	4553(SK)	幼魚が稀に観察される。
	ノドグロベラ	4560(KF)	岩礁の浅所に普通。雄の成魚は稀。
	ウスバノドグロベラ	4561	海藻の繁茂した岩礁域で観察されたことがある。
	セジロノドグロベラ	4562(TaK)	岩礁の浅所に普通。
	オオヒレテンスモドキ	4596(SK)	八重根の水深20m付近で幼魚が一度観察された。
	オビテンスモドキ	4597(SK)	幼魚は成魚の岩礁や転石などでみられるが成魚は稀。
	シラタキベラダマシ	4583(SK)	水深30m付近で観察例がある。
	シラタキベラ	4582(SK)	ヤケンヶ浜の水深25m付近で雄を含む十個体の群がりが一時期観察された。

ブダイ科	ヤマシロベラ	4580, 4581(KF)	潮通しのよい根の周辺などで観察される。
	ブダイベラ	4535(SK), 4536(KF)	潮通しのよい根の周辺で稀に観察される。成魚も観察されたことがある。
	オグロベラ	4563	水深25m以深で稀に観察される。
	ササノハベラ	4551(SK)	浅所に普通。
	ヒメニセモチノウオ	4600(TaK)	岩礁の小さな岩穴などに普通。
	ニセモチノウオ	5687(SK)	生きたサンゴの周辺で普通に観察される。
	ヤスジニセモチノウオ	4601(SK)	水深20m以深のサンゴの周辺で稀に観察される。
	コブダイ	4534(SK)	幼魚が観察されたことがあるが、きわめて稀。
	アカオビベラ	4555(KF), 4557(SK)	岩礁の浅所で成魚も普通にみられる。
	カミナリベラ	4556(SK)	岩礁の浅所にみられる。雄成魚は少ない。
	オニベラ	4558(TaK), 4559(TaK)	大潟浦の浅所で一度観察された。
	コガシラベラ	4549(KF)	岩礁の浅所に周年普通に観察される。グループ産卵が観察される。
	ニシキベラ	4546(KF)	岩礁の浅所で最も普通。グループ産卵がよく観察される。
	セナスジベラ	4543(SK)	岩礁の浅所やタイドプールで幼魚が観察される。
	ヤンセンニシキベラ	4545(SK)	岩礁の浅所やタイドプールでみられるが少ない。
	オトメベラ	4544(SK)	岩礁の浅所に普通。
	ヤマブキベラ	4547(SK)	岩礁の浅所に普通。
	リュウグウベラ	4548(SK)	岩礁の浅所で普通にみられるが数は少ない。
	ハシナガベラ	4598(SK)	八重根の水深18m付近の小さな岩穴の奥で観察されるが少ない。
	テンス	4594(KF)	砂底に普通。
	ホシテンス	4593(SK)	
	テンス属の1種	4595(SK)	分類学的研究が遅れており、正確な同定は困難。
	イロブダイ	4603(SK)	幼魚のみ稀にみられる。
	ブダイ	5637(TaK)	岩礁の浅所に普通。
	ブダイ属の1種	4610(KF)	幼魚の同定はきわめて困難。
	ヒブダイ	4605(KF), 5622(HT)	幼魚から若魚が周年みられる。
トラギス科	ブチブダイ	5623(HT)	
	オビシメ	5662(HT)	やや浅い岩礁域で稀に観察される。
	アオブダイ	4606(SK), 4607(KF)	岩礁の浅所に普通。
	ニシキブダイ	4604(SK), 4608(SK)	
	アオブダイ属魚類幼魚	4609(KF), 4611(KF)	幼魚の同定はきわめて困難。
	ヨツメトラギス	4164(SK)	
	カモハラトラギス	5664(SK)	ナズマドの水深25m付近などで観察例がある。
	ワヌケトラギス	4613(SK)	
	サンゴトラギス	4615(AY)	
	オグロトラギス	4612(SK)	砂だまりで観察例があるが少ない。
ヘビギンボ科	コウライトラギス	5629(HT)	
	コクテントラギス	5663(HT)	
	マダラトラギス	4614(HO), 4616(KF)	浅所の砂礫底などで稀に観察される。
	ヨゴレヘビギンボ	4618(SK)	
	タテジマヘビギンボ	4617(KF)	平面的にひろがるサンゴ群体上にみられる。通年はいない。
	ヘビギンボ科魚類	4176(SK), 4177(SK), 4619(JO), 4620(JO), 4621-4623(KF), 4624(SK), 4625(SK), 4626(KF), 4627(TaK), 4628(SK), 4799(KF), 4806(SK)	多数の種類がいるが、写真による属や種の同定はきわめて困難。
コケギンボ科	コケギンボ属魚類	4629(KF), 4630(SK)	種の同定はきわめて困難。
	クロスジギンボ	4634(SK)	八重根の水深4mのサンゴ群体で一時期観察された。
イズギンボ科	アミメミノカエルウオ	4160(SK), 4161(SK), 5645(SK)	ナズマドの浅所で観察された。
	スジタテガミカエルウオ	4639(SK)	岩礁域の10～15m付近で稀に観察される。
	ニラミギンボ	4643(ToK)	ナズマドの水深15m付近で一時期観察された。
	ケショウギンボ	5058-5061(KF)	波当たりの強い潮間帯の岩の間隙やクロフジツボ類の死殻内にみられる。
	スジギンボ	4642(SK)	ナズマドなどのタイドプールでときおり観察される。
	セダカギンボ	4638(KF)	サンゴの枝間や岩の間隙などにみられるが少ない。
	カエルウオ	4640(SK), 4641(SK), 5069(KF)	水深5m以浅やタイドプールで普通に観察される。
	オウゴンニジギンボ	4631(SK)	岩礁域で稀に観察される。着底する事はなく岩陰などを泳ぐ。
	カモハラギンボ	4632(SK)	岩礁の浅所に普通。
	ニジギンボ	4633(KF)	岩礁の浅所に普通。藻場などを泳いでいるが、小さな穴にもよくはいる。
ネズツボ科	イナセギンボ	4636(SK)	岩礁域の岩陰で観察される。やや稀。
	ミナミギンボ	5677(SK)	岩礁の浅所で稀。小さい穴などに入って顔を出していることがある。
	テungkロスジギンボ	4635(KF)	岩礁の浅所に普通。よく泳ぐ。
	タネギンボ	5066-5068(KF)	タイドプール内に多い。
	シマギンボ	4637(KF)	浅所のサンゴ群体上で観察例がある。
	コブヌメリ	4805(SK), 5636(KK)	岩礁に囲まれた砂礫底で観察されるが少ない。
	ヒメテグリ	4645(SK), 4803(SK), 4804(SK)	水深5～10mの砂の混じる岩礁で観察される。
	ミヤケテグリ	4646(KF)	水深20m前後の岩礁域に周年みられる。

ハゼ科	コウワンテグリ	4644(KF), 4809(SK)	岩礁の浅所やタイドプールで観察される。
	ダテハゼ属の1種	5633(KF)	1995年10月24日、八重根の水深12mで観察された。
	クビアカハゼ	4673(SK)	砂礫底でときおり観察される。
	ホホベニサラサハゼ	4674(SK)	神湊港内で観察例がある。
	サラサハゼ	4675(HO)	神湊や底土などの砂泥底で稀に観察される。
	ホシハゼ	4647(SK)	閉鎖的な港内などの差泥底で観察されることがある。
	スジクモハゼ	4678(KF), 5690-5692(KF)	タイドプールや淡水の混じる浅所に多い。
	クモハゼ	5693(KF), 5694(KF)	タイドプールに多い。
	クロヤハズハゼ	4679(KF), 4800(KF)	タイドプールや淡水の混じる浅所に多い。
	ガラスハゼ属の1種	5581(SK), 5627(SK)	オオガラスハゼと思われる。
	ガラスハゼ	4680(TaK)	ムチカラマツに着生。少ない。
	シュンカンハゼ	4677(TaK)	岩穴の奥の砂底上にみられる。
	シロオビハゼ	4676(TaK)	底土の水深12m前後の砂底で観察されている。
	イソハゼ属魚類	4649(KF), 4651(KF), 4798(SK)	種の鑑別はきわめて困難。
	セホシサンカクハゼ	4666(TaK)	転石や岩礁の間の小さな砂地に普通。
	ハタタテサンカクハゼ	4665(KF)	転石や岩礁の間の小さな砂地にみられる。
	カタボシサンカクハゼ	4801(KF)	岩礁の浅所で稀に観察される。
	カタボシオオモンハゼ	4667(KF)	転石や岩礁の間の小さな砂地に普通。
	コバンハゼ属魚類	4162(SK), 4681(TaK), 5578-5580(SK), 5646(SK)	分類学的混乱が著しく、同定はきわめて困難。
	クツワハゼ	4668(TaK)	砂地に普通。
	ホシカザリハゼ	4669(TaK), 4670(TaK)	転石や岩礁の間の小さな砂地に多い。
	ホシノハゼ	4671(SK), 5582-5584(SK)	岩礁の下の方で観察されることがある。
	マダラカザリハゼ	4672(KF)	撮影時以外観察されていない。生体状況は不明。
	アカヒレハダカハゼ	5070-5073(KF)	1995年9月、垂戸海岸の波あたりが強い岩礁の潮間帯中部から上部にあるタイドプールで観察された。
	ウミショウブハゼ属の1種	5628(HT)	アカスジウミタケハゼと思われる。
	コクテンベンケイハゼ	4663(TaK), 4664(SK)	生息場所はベンケイハゼに似るが稀。
	ベニハゼ	4653(TaK)	岩礁域の大きな岩穴の天井付近に着底している。
	アオギハゼ	4654(KF)	15m以深の岩穴の天井付近にみられる。腹を天井に向けて遊泳している。
	イチモンジハゼ	4650(TaK)	岩礁域の穴の中で観察される。
	オオメハゼ	4656(KF)	水深15m以深の岩穴に普通。壁や天井に着底している。
	オキナワベニハゼ	4652(TaK)	岩礁域の大きな岩穴の天井付近に着底している。
	ベニハゼ属の1種	4657(SK)	ナズマドの水深5～8mの横穴で観察例がある。分類学的研究が遅れており、正確な同定は困難。
	オヨギベニハゼ	4655	15m以深の岩穴にみられる。小さな群がりを作りあまり着底せず泳ぐ。
	アカハチハゼ	4648(KF)	岩礁域の砂だまりなどで高水温期に観察される。
	アケボノハゼ	4658(TaK), 5686(SK)	ナズマドの水深40m前後の砂礫底で観察例がある。
	ハタタテハゼ	4659(TaK)	水深15m以深の砂の混じる岩礁や転石に普通。
オオメワラスボ科	クロユリハゼ	4660(KF)	幼魚は数10個体以上の群で中層を泳ぐ。成魚はペアで海底近くを泳ぐのが観察される。
	オグロクロユリハゼ	4661(SK)	幼魚が稀に観察される。
	クロユリハゼ属の1種	4165(SK), 4662(SK)	ハナハゼに近似するが尾鰭鰭条は伸長しない。
	ゼブラハゼ	5665(HT)	1995年夏に底土で観察された。
アイゴ科	アミアイゴ	4682(SK)	やや波あたりの弱い浅所で観察される。
	ツノダシ科	ツノダシ	ごく普通。数個体の群がりをつくる。
	ニセカンランハギ	4697(KF)	岩礁域に普通。
	ナミダクロハギ	4695(TaK)	一時期ナズマドの浅所で観察された。
ニザダイ科	スジクロハギ	4692(SK)	高水温期にナズマドで観察されたことがある。
	ニジハギ	4693(TaK)	波打ち際付近でときおり観察される。
	ナガニザ	5673(SK)	岩礁の浅所に普通。
	モンツキハギ	4696(KF)	幼魚はベラやブダイ類の幼魚の混群に混ざって観察されることが多い。成魚は少ない。
	クログチニザ	4694(SK), 5586(SK), 5672(SK)	幼魚が稀に観察される。
	シマハギ	4691(KF)	タイドプールや岩礁の浅所に普通。
	コクテンサザナミハギ	5626(HT)	岩礁の浅所で幼魚が稀に観察される。
	サザナミハギ	5680(SK)	岩礁域に普通。周年みられる
	ツマリテングハギ	4686(SK), 5621(SK)	岩礁の浅所で単独で観察される。大型の個体は稀。
	ミヤコテングハギ	4688(SK)	水温の低い時期に数十個体の大きな群れがみられる。
	ゴマテングハギモドキ	4685(KF)	潮通しのよい水深20m前後の岩礁域で、流れのあるときにしばしば観察される。
	キビレボウズハギ	5688(SK)	岩礁の浅所で高水温時に普通。幼魚から成魚までみられる。
	テングハギ	4687(SK)	波あたりの強いところで群がりをつくっている。伊豆半島に比べて大型の個体が目立つ。
	ニザダイ	4684(SK)	幼魚のみ観察例がある。
	ゴマハギ	4690(TaK)	潮通しのよい岩礁でペアで稀に観察される。幼魚は閉鎖的な場所の腔腸動物の枝間などで観察される。
	ヒレナガハギ	4689(SK)	

カレイ目	カマス科	カマス属の1種	4698(SK)	アカカマスまたはタイワンカマスのいずれかと思われる。
	サバ科	カマスサワラ	5676(SK)	潮通しのよい場所で稀に観察される。
		ヒラソウダ	4700(SK)	
		スマ	4701	小型の個体が表層近くで小魚を追うのがときおり観察される。
		イソマグロ	4699(SK)	
	エボシダイ科	ホソオキメダイ	4178(SK)	1995年6月、ナズマドの水深3mの地点で観察された。
		シマハナヒラウオ	4702(SK)	幼魚がクラゲの触手につく。
	ヒラメ科	ヒラメ	4703(KF)	砂底で稀に観察される。
		トゲダルマガレイ	4166(SK), 5653(SK)	
		コウベダルマガレイ	4704(SK)	
フグ目	カレイ科	<i>Samariscus triocellatus</i> Woods, 1966	5577(SK)	1995年9月、底土の水深18mの地点で1個体みられた。
	ササウシノシタ科	ムスメウシノシタ	4705(SK), 5065(KF)	浅所の砂泥底に普通。
	モンガラカワハギ科	クマドリ	4711(TaK)	岩礁域で小型の個体が稀に観察される。
		クロモンガラ	4709(TaK)	岩礁域に多い。周年みられる。
		アカモンガラ	4710(KF)	水深20m付近の砂底にある岩礁で稀に観察される。
		タスキモンガラ	4712(KF)	やや閉鎖的な浅所で毎年みられる。
		ムスメハギ	4708(TaK)	岩礁域にやや稀。
		ツマジロモンガラ	4707(KF)	岩礁域に普通。周年観察される。
		メガネハギ	4706(KF)	岩礁域に普通。周年みられる。
		ホシモンガラ	4714(SK)	潮通しのよい岩礁域で稀に観察される。
カワハギ科		アオスジモンガラ	5685(SK)	ナズマドの水深25m付近で一時期観察された。
		ナメモンガラ	4713(KF)	水深15m以深の岩礁域に普通。
		ウスバハギ	4719(KF)	低水温期に毎年観察される。
		ソウシハギ	4720(TaK)	岩礁域で観察される。幼魚は流れ藻についていることがある。
		ハクセイハギ	4717(TaK)	岩礁域に普通。
		メガネウマツラハギ	5684(SK)	岩礁の浅所で単独でいるのが稀に観察される。
		ノコギリハギ	4722(TaK)	岩礁域でときおり観察される。
		ヌリウケカワハギ	4716(TaK)	サンゴの豊富な岩礁域で稀に観察される。
		ハナツノハギ	4721(KF)	閉鎖的な水域の浅所で、ブイのロープについているのが一度観察された。
		カワハギ	4715(SK)	浅所の砂礫底でしばしば観察されるが、ほとんどいない時期もある。
ハコフグ科		ウマツラハギ	4718(KF)	低水温期に幼魚が観察されることがある。
		ウミスズメ	4727	岩礁の浅所に普通。
		ミナミハコフグ	4723(KF)	幼魚が稀に観察されるが、成魚の観察例はない。
		ハコフグ	4724(KF), 4725(KF)	岩礁の浅所に普通。
		クロハコフグ	4726(KF)	岩礁の浅所で稀に観察する。
	フグ科	サザナミフグ	4729(KF)	岩礁域で稀にみられる。
		ゴマフキンチャクフグ	4733(SK)	岩礁域の水深5m前後でごく稀に観察される。
		ハナキンチャクフグ	4732(KF)	岩礁の浅所で普通。
		シボリキンチャクフグ	4734(SK)	岩礁の横穴の中などでしばしば観察される。
		キタマクラ	4730(KF)	岩礁の浅所で普通。
ハリセンボン科		シマキンチャクフグ	4731(KF)	岩礁の浅所で稀に観察される。
		クサフグ	4728(KF)	神湊など閉鎖的な浅所の砂底にみられる。初夏には成魚が50個体以上まとまって観察される。
		イシガキフグ	4737(KF)	岩礁や転石に多い。
		ハリセンボン	4735(SK), 4736(TaK)	岩礁の浅所に普通。